

～インクルーシブ教育のシステム構築のために、
今、通常の学級でできること～

登壇者紹介⑥

小島 哲夫先生

はいさい!!!皆様いかがお過ごしでしょうか。日本LD学会第8回研究集会第6号通信をお届けいたします。今回はシンポジウムの話題提供者、小島哲夫先生のご紹介です。

「特別な支援が必要な子を含めて、通常学級のすべての子が、楽しく学び合い『わかる・できる・探究する』ことを目指す授業デザイン」として、授業づくりの工夫・配慮を特別支援教育の視点を生かしながら取り組んでいます。その中の手法の一つである「しかけ」は子どもの気づきを引き出すとともに、学びのきっかけづくりや本質に迫る手立てとして有効であると考えています。しかし、その根底には子どもたちに身につけさせたい力を明確にした『授業デザイン』が最も重要だと考えています。年間計画をはじめ、発達の段階を考慮した『授業デザイン』に関わる教師の教材化の視点について、話題提供できればと考えています。



小島 哲夫（こじま てつお）

【略歴】

那覇市立壺屋小学校 教頭

琉球大学大学院高度教職実践専攻（教職大学院）修了

那覇市立大道小学校採用から公立小学校勤務、琉球大学教育学部附属小学校等を経て現職

日本授業UD学会理事・沖縄支部代表

泡盛古酒の魅力

～泡盛は好きですか～

なぜもともと泡盛を好きではなかった私が、泡盛の古酒にハマったのか？

沖縄のお酒といえば「泡盛」です。しかし、泡盛は飲んだことが無い、または飲んでみたがどうも苦手だと言う方、「そもそもそんな強いお酒に全く興味がありません」なんて人もいるかもしれません。実は私も泡盛はどちらかと言うと苦手なお酒の1つでした。そのような方々にもあえて今回は泡盛、特に古酒の魅力をお伝えしたいと思います。

先にお伝えしますが、実は第8回研究集会の前日には、夕方からメルキュールホテル沖縄那覇にて交流会を予定しております（詳細は当HPで）。その席に3本の特別な泡盛をご準備いたしました。それぞれの泡盛の詳しい説明は会場にておこないます。お楽しみに。

泡盛は人をつなぐ酒。若い時は仲間とワイワイガヤガヤ。ダラダラと朝まで安い泡盛の水割りを汲み交わし、たくさんのおしゃべりをしました。水7割、泡盛3割の割合で作って飲むと、泡盛の風味はほとんどなくなり、苦手な香りや味はあまり気にならなくなる、ただただ飲めば飲むほど酔っぱらう安上がりなお酒でした。そんな私が40代半ばの頃、父から20年古酒の泡盛を数本もらい、それを水割りで飲んでみてびっくり。「なんということでしょう、それは全く今まで経験のない良い香りのする、甘いまろやかなお酒になってるではありませんか」、そこから泡盛(古酒)の勉強が始まりました。

次ページへつづく・・・



「泡盛の古酒」とは特別な酒

泡盛は長期保存すると熟成し古酒になります。3年経つと古酒と呼ぶことができますが、やはり古酒としての旨みが増すのは10年以上経ってからだと思います。熟成していく過程で、泡盛独特のクセが旨みへと変化し、まろやかで飲みやすくなります。銘柄によっては苦手だなと思っていた、臭み（好きな人にとっては香り）や強いアルコールの刺激がほぼ感じなくなります。熟成が進めば進むほどその傾向は強くなり、15年から20年ものの泡盛は、口に含んだ時に香りが広がり、喉越しの良いお酒になってしまいます。つまりぐいぐい飲めてしまう、ある意味危険な飲み物へと変化してしまうわけです♪

沖縄には47の泡盛酒造所があり、自分好みの泡盛りが選べるのも楽しみの1つです。この泡盛の酒造所が47あることが、古酒をさらに面白くします。泡盛の古酒は各銘柄の特有の香り（バニラ、チョコレート、ブランデー、ヤギの香りなど1説によると49種類ぐらいあるとも言われている。）が引き立ってきます。新酒だとクセが強いと感じる銘柄ほど、そのクセが旨みや芳醇な香りへと変化する不思議なお酒です。ウイスキーなどは銘柄によって安定の味が売りですが、泡盛は時間が経つほど熟成していくため、古酒は正直飲んでみるまでどんな味かわからないお酒です。だからどんな香りがして、どんな味なのか、期待しながら飲むのは、古酒の楽しみの1つです。

古酒はもともと成人のお祝いや、特別な場で飲むとおきのお酒。ちなみに普通のおちょこの3分の1位のちっちゃなおちょこを沖縄では「ちぶーぐわー」と呼び、居酒屋で古酒を頼むと、このちっちゃいおちょこに入って出てできます。これをペロペロ舐めるように味わいます。20年物の古酒だと大体一杯1000円から2000円のお値段になる。だから、古酒を飲むと特別感がある。また、古酒をプレゼントすると喜ばれます。

古酒をお安く手に入れましょう

でも、「古酒ってお高いでしょ」と思っている方も多いかもしれません。アルコール度数によりますが、43度の720mlの瓶詰め10年古酒だと1本6000円以上はします。15年古酒だと20000円前後、銘柄によっては50000円以上する場合があります。アルコール度数が低くなると安くなりますが、風味がどうしても落ちてきます。しかしこのような美味しい古酒を、簡単にリーズナブルに手に入れる方法があるんです。これは私みたいな1部のマニアしかやっていない方法ですが、お店の狙い目は古めのコンビニや老舗のお土産店、ブックオフなどの中古買い取り店などです。瓶のラベルに刻印されているお酒の詰日をチェックしましょう。



西暦の下2桁や元号で数字が打たれています。お店で売れ残っている古いけど原価で売られている泡盛を見つけるのは、お宝探しのようで楽しいものです。お店は品質管理もバッチリだし、値段は原価のままなのでこれはお買い得品です。泡盛は瓶詰めでもただ寝かせておくだけで価値上がり、美味しくなるのでお得なお酒です。急いで飲まなくてもいいです。お土産で買って飲みたい時にゆっくり少しずつ飲んでもいい（風味が飛んでしまうため、蓋はきちんと締めましょう）。今流行のNISAのように、置いておくと、どんどんその価値が上がるので、未開封の古酒を投資の1つとして考えるのも面白い。私も自宅に古酒を50本ほどストックしています。沖縄で泡盛を飲むと何故かおいしいし、さらに古酒を飲むと通だと思われるのも楽しい。沖縄時間をゆっくり楽しむにはもってこいの飲み物です。是非この機会にご賞味を。

